



藩政期より永きにわたり金沢の地に深く根差す「能」芸術。
 白山の稜線の如く広がる「能」の裾野をキャンバスにして、
 クラシック音楽・現代ビジュアルアート・モダンバレエという舞台芸術を貼り合わせる三種のコラージュ。
 先端を走る豪華アーティストが集結し、予定調和を外れて三つの景色を重ねた先に立ち現れるのは、
 洋と邦のみならず、時代をもつなぐ美の世界。

第一景

能居囃子と映像「松風」

Matsukaze

能の中でも特に人気の高い「松風」のクライマックス部分を、当代一流の楽師たちによる居囃子（謡、囃子のみの演奏）でご堪能いただけます。演奏中、背景には「松風」からインスピレーションを得た、アーティスト中山晃子の映像作品が投射されます。

松風：渡邊 茂人 村雨：川瀬 隆士 地謡：渡邊 荀之助
 笛：松田 弘之 小鼓：曾和 鼓堂 大鼓：飯嶋 六之佐
 ビジュアルアート：中山 晃子

第二景

能舞とバッハ

Noh with J.S.Bach

能を愛するロシア人ピアニスト、K.リフシツたつての願いで、自身の名を世界に知らしめた「バッハ」の演奏に乗せて、渡邊荀之助が舞います。世界的演奏家によるバッハの音楽に、宝生流の特长である、内面の充実に力点を置く静謐な舞がどう重なるか——必見の舞台です。

バッハ／バルティータ 第6番より「サラバンド」
 J.S.Bach / Partita Nr.6 e-moll, BWV830 「Sarabande」

能舞：渡邊 荀之助 ピアノ：コンスタンチン・リフシツ

第三景

能とモダンバレエ「展覧会の絵」

ムソルグスキー

Mussorgsky/Pictures at an Exhibition

今年の「風と緑の楽都音楽祭」で満席の会場を興奮の渦に巻き込んだステージが、さらに美しさを増して再演されます！
 K.リフシツの超絶なピアノ独奏から、能舞とモダンバレエによる極彩色の夢幻世界が広がります。

能：渡邊 荀之助 渡邊 茂人 川瀬 隆士 渡邊 さくら
 モダンバレエ：中村 香耶
 ピアノ：コンスタンチン・リフシツ 笛：松田 弘之
 ビジュアルアート：中山 晃子

渡邊 荀之助 (宝生流能楽師)

Junnosuke Watanabe, Noh Actor



金沢市生まれ。初世・渡邊荀之助の次男。3歳で能の稽古を始め、4歳で初舞台。東京芸術大学音楽学部邦楽科を中退し、宝生流第十八世宗家・宝生英雄の内弟子となる。1991年 能楽宝生流シテ方として重要無形文化財総合指定を受ける。2002年 他賀男改め二世・渡邊荀之助を襲名。これまでに「乱」「石橋」「道成寺」「翁」「景清」「綾鼓」などを披露。国内外での演能活動の他、京劇、バレエとのセッションや振付、作曲、ワイドショーのコメンテーター、講演、新聞雑誌等の執筆等幅広く活動している。賀宝会、加賀能楽座を主宰。

コンスタンチン・リフシツ (ピアノ)

Konstantin Lifschitz, Piano



ウクライナ生まれ。5歳でグネーシン特別音楽学校(モスクワ)に入学。17歳の時にリリースしたCD「バッハ/ゴルトベルク変奏曲」が熱狂的な支持を得てグラミー賞にノミネートされ、彼が世界的ピアニストであることを確たるものとした。

モスクワでのデビュー以来、ニューヨーク・フィル、シカゴ響、ロンドン響などの有名オーケストラや、ロストロポーヴィチ、マリナー、ハイティンク、ノリントン、ユロフスキなどの指揮者と共演。また、世界中の主要な音楽祭やコンサートホールでリサイタルを行っている。

ロンドン王立音楽アカデミー・フェロー、ルツェルン音楽大学教授。



●JR北陸線/金沢駅兼六園口(東口)徒歩1分 ●北鉄バス/金沢駅下車

石川県立音楽堂

